

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	英語演習		
英文授業科目名	Intermediate Seminars in English		
開講年度	2008年度	開講年次	2年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化演習科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	酒井 邦秀		
居室	東1-716		

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
<p>学生一人一人の批判的思考と自律学習を助けるために： 2007年度に酒井のAcademic Spoken English I, IIを履修した学生のうち、2年目に進むことが力を伸ばすために役立つと酒井が判断した学生を対象にします。一方で1年次よりも高度な英文の多読・多聴を継続し、他方では話す・書くの面で学術的なレベルに近づくことをめざします。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
Academic Spoken English I, II

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
ありません。

【教科書等】
<p>全員が一斉に読む「教科書等」はありません。5千冊を越える多読用図書、200種類を越えるCD、100種類を越えるDVDを利用し、一人一人が違う道をたどって英語を使えるようになることをめざします。そのため毎年相当数の多読用図書が本棚に戻ってきません。それらの紛失を補充し、新たな素材を共同購入するために半期につき一人あたり、2000円を集めます。</p> <p>なお、この授業の参考書としては 「どうして英語が使えない？ 学校英語につける薬」酒井邦秀、ちくま学芸文庫</p>

電気通信大学 平成20年度シラバス

「快読100万語！ ペーパーバックへの道」

酒井邦秀、ちくま学芸文庫

「教室で読む英語100万語」

酒井邦秀、神田みなみ、大修館書店

があります。

【授業内容とその進め方】

上の目標のために、学生一人一人が自律的に自分の学習方法を選びます。そのために、次のような作業から授業者の助言の下、学生は将来の目標と、現在の自分の得意不得意を考慮し、一つまたは複数の作業を組み合わせます。

- * 基本的な内容と、高度な内容の多読・多聴の継続
- * 英字新聞（Daily YomiuriとJapan Times）の科学記事、国際記事など
専門的な内容の記事の読解
- * インターネット上のラジオやテレビを使った一般向け学術情報の収集
- * CDおよびDVDによる高度な音声教材の利用
- * 上記情報を音声/文字で批判的にまとめ、発表する。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

学期開始時にそれぞれの到達目標をわたしと相談の上で決めます。
学期終了時にはその到達目標に達しているかどうかを話し合い、
その結果により成績を決めます。

【オフィスアワー：授業相談】

課題の本やCDが終わったら研究室前の本棚に本を取り替えに来てください。
その際に研究室の戸を叩いて、様子を聞かせてください。

水曜日の午後から6限の終わりまでがいちばんつかまりやすいはずですが。
そのほかの時間は会議、授業の準備などで研究室にいないことがあります。
事前に連絡をください。

【学生へのメッセージ】

演習は多読・多聴については完全に自立し、話す・書くについてもある程度の補助があれば簡単な言葉を使って表現できるようになることをめざします。「自分は何のために英語を獲得したいのか？」そこをはっきりさせて、それを常に意識しながら学術的英語の獲得に向かって行ってください。

【その他】